

2022年3月22日

デジタル化と人間力

群馬大学 小林春夫

どの大学のHPをみてもデジタル化にベクトルを向けていることが感じられる。日本はデジタル化が立ち遅れているという指摘もあるが、どんどん社会がかわりつつあることを感じる。自分の限られた範囲でも仕事の生産性は格段に上がり、生活の利便性は非常に良くなっている。

講義のオンライン化が進んでいる。対面とのハイブリッドでも、講義資料はすべて電子ファイルで提供し、学生からは出席・感想を電子的に提供してもらおう。学生の感想による教員側の「気づき」もしばしばある。

「ITのおかげで、教師は、型にはまった学習、矯正のための学習、反復的な学習にその時間の大部分を投入しなくてもすむようになる。」

経営学者 ピータードラッカー

複数の著者による論文作成が電子メール等で通信時間・コストを格段に低減できて行える。電子投稿も非常に効率的である。論文は採択後2-3日で Early access として学会ウェブにて世界に発信してもらえる。発表論文は電子的に半永久的に「記録」に残る。

学会のチュートリアル、キーノートが Youtube にて無料で聴けることが多くなった。また、いろいろなところから非常に良質な講演を web 配信してもらえることが多くなる。様々なタイムリーな情報が容易に電子的に入手できる。

成功するためには「スピードと奇襲」が重要と源義経から学ぶことができる。デジタル化により仕事のスピードが格段に速くなった。「量的変化は質的变化を引き起こす」という考え方があるが、スピードが速くなると質的变化を引き起こすように思う。

自分の意見や仕事をマスコミ報道してもらおうということを意識しなくてよい。必要なら自分で書けばよい。

これらは大学に所属し、そのインフラやサポートの恩恵を受けているからであろう。

「IT 革命がたどる道は、グーテンベルクの活版印刷の発明から始まった印刷革命のあとを見ればわかる。」

経営学者 ピータードラッカー

一方 大きな仕事・良い仕事をするためには それだけでは何か足りないと感じる。

聖書、論語、老子 等何千年も読まれてきているもの、日本の古典。
これらは現在からみればはるかに不便な時代に書かれている。

「便利さ」と「大きな仕事をする」は直結しない

司馬遷の史記

大作の歴史書 不自由な環境下で執筆

玄奘法師のインドからの経典

当時の社会に大きなインパクト

大きな仕事のためには
「人間の精神力」の要素大

「人間力」を鍛える

「死と向かいあった捕虜の世界では、皆平等である。

実社会で威張っていた人物ほど、
極限状態に置かれたら だらしのないの
ずいぶん見たものだ。

いまだに、肩書きや学歴を鼻にかける人間が
信用できないのは、ことのときのあまりにも
大きな落差を知っているからである。」

(シベリア抑留経験、再建王 坪内寿夫)

次の言葉に出会い、自分が求めていたのはこれかと気が付く。

良い仕事するためにはいつの時代にもこれが必要かと思う。

「オリジナルは生命の燃焼によってしか作れない。

灼熱した情熱や高いポテンシャルエネルギーがなければどうにもならない。」

数学者 岡潔